
5. 課題

(1) 持続可能な農業の実現

人口減少・高齢化の進行等を背景に山武市の農業を取り巻く状況はさらに厳しさを増すと予測される中、このままいけば山武市の農業は衰退の危機に瀕する可能性も出てきます。

先人から受け継いできた山武市の農業を、いかに持続可能で、より良い状態で次の世代に受け渡せるかが、私たちに課せられた最重要課題です。こうした課題に対応するためには、次にあげるような視点を念頭に置き、取組を展開することが重要です。

- 山武市としての農業の特徴（強み、可能性）を活かすとともに、農業者の意向・意欲を尊重する。
- 短期的な結果にとらわれず、長期的な視点を持ち、10年後、20年後を見据えて、今からできる事に着手する。
- 現状の打開に向け、新規領域への挑戦や新しい技術・発想・人材の取り込みなどを積極的に行う。
- 担い手の数等が限られる中で農業を維持するため、担い手への集積・集約化や高収益化などの質の向上に力点を置いた取り組みを進めるほか、農業者同士、地域同士など、農業に関わる人々が相互に力を合わせて、課題解決に向けた取り組みを進める。
- 担い手不足をはじめ、気候変動、災害など、この先襲い掛かる可能性のある様々なリスクに立ち向かう力を養うため、早期から将来を見据えたりリスク対策に取り組む。
- 山武市の農業は、世界の農業の一翼を担う存在であることを認識し、環境配慮などの社会的な要請への対応を進める。

(2) 急激な担い手の減少への対応

これまで山武市の農業の中核を担ってきた個人経営体の数の急激な減少が予測される中、将来の担い手の確保が急務となっています。そのため、担い手の確保に向けた取り組みを続けることが重要です。また、山武市の農業を次の世代に受け継ぐためには、将来の農業を担う世代の就農希望者を増やすことも重要です。若者の農業離れが進む中で、就農するにあたっての不安を軽減し、若者が将来に希望を持てる農業に転換することが求められます。そして、今の農業者の持つ経験や技術等を若い世代に伝承していくことも課題です。

近年は、経営力のある農業者への農地の集約等が進む傾向も見られますが、集積・集約化を進める農業者からはこれ以上の農地を抱えるのは難しいといった声も出ています。こうした現状も加味しつつ、今後10年、20年先を見据え、仮に担い手の数が減ったとしても農業を持続できる方法はないかを探り、その形に近づけていくことが必要です。

（３）農地の荒廃化抑制と有効活用

山武市の農地はこれまで農業者により手入れされ、良好な状態で維持されてきました。しかし、近年の農業の担い手の減少や農地需要の低下などを背景に、農地が減少し、利用されない不作付地が増加しています。農地は山武市特有の田園景観を形づくる重要な要素であるだけでなく、生産環境の保全や国土保全の観点からも重要な役割を果たしています。農地が利用されず放置されることで、農地が果たしていた役割が損なわれ、農業や生活環境に悪影響が出る可能性があります。

農地の荒廃化抑制と有効活用に向けては、農業・農地を受け継ぐ相続者等の存在が鍵となります。今後、農地の適正管理や適切な担い手への受け渡しを円滑に進められるよう、相続者等に働きかけることも必要です。

（４）主要産業としての農業生産力の維持

担い手の減少など農業をとりまく状況が厳しさを増す中でも、主要産業としての農業の生産力維持が課題です。特に主要生産物である野菜は、農業者から農作業の効率化や農地の維持が難しく、生産の継続が難しいと指摘される中で、労働力の効率化など、いかにその生産を維持していくかが課題です。

産業力維持に向けては、将来を見据え、農業の新たな展開を模索することも重要です。山武市の農業は、安定した生産力・品質や生産物の多様性が強みとなっています。食料の安定供給が世界的な課題として取り上げられる中で、食生活に身近な生産物を多く生産する山武市の強みを活かした農業政策を展開することも必要です。

一方、山武市の農業が持つ暮らしとの接点（風景、食卓）や海、山などの自然環境との近さといった潜在的な可能性を活かすことで新たな魅力を生み出せる可能性があります。こうした山武市の強みや可能性にスポットを当て、特徴づけや付加価値化につなげることが求められます。

（５）農業への多様な主体の巻き込み

山武市の農業は基幹産業としての役割に加え、農業によって生み出される田園景観、風土など、山武市の地域資源を生み出す源となっています。しかし、担い手が減り、農業を続ける上で農業者の負担が大きい中で、それらを農業者だけで維持するには限界が生じています。

そのため、今後は、農業の恩恵を享受する市民や消費者など多様な主体も巻き込み、山武市の農業を支え、盛り上げていく環境をつくることも重要です。